

2013年度(平成25年度)学校評価自己評価表

済美中学校区	校番18	福山市立 瀬戸 小学校
--------	------	-------------

I 福山市 めざす子ども像

福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 中学校区

1 めざす子ども像

《中学校卒業時、生徒につけたい力のイメージ》

- 生き方を判断するための「基礎学力」を身につける。
- かかわり合いながら「伝え合う力」を身につける。
- 目標に向かって努力し、「やりきる」ことができる児童・生徒を育てる。

2 児童生徒の現状

○教育研究の継続的な取組により一部にはその成果がみられるものの、基礎的・基本的な学力の定着には、依然として厳しい実態がある。とりわけ、思考力や表現力、主体的な学習態度などに課題がみられ、家庭学習の習慣も十分定着しているとはいえない。

○元気で活発な反面、人とかかわりや自分の気持ちを言葉で伝えることを苦手とするなど、自分自身に自信を持ってない児童・生徒が多くみられる。生活と学習に関する意識・実態調査では、「将来の夢や目標を持っている」などの項目に課題がみられ、自己肯定感や自己実現力を高めることが課題である。また、「学校や社会のルールを守っている」の項目にも課題がみられ、基本的な生活習慣の確立や規範意識の高揚を図る必要がある。

○欠席日数が30日を越える生徒の割合や、特別な支援を必要とする児童生徒の割合が高い。

3 課題

- 基礎・基本の学力の定着
- 基本的な生活習慣の確立
- 規範意識の高揚
- 生徒指導上の課題の減少

III 自校

1 学校教育目標

よく考え、豊かな心と生きる力をもった子どもの育成

2 経営理念

(1) 中学校区における自校の使命(ミッション)

ふるさと瀬戸町を愛し、誇れる、きらきらかかやく瀬戸っ子を育てる。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

学校像 ・活力みなぎる学校 ・安心して過ごせる学校 ・地域とともに歩む学校

子ども像 ・自ら学び、自ら考える子 ・心豊かでたくましい子

教職員像 ・教育に対する情熱と使命感を持つ教職員 ・明るく元気で支え合う教職員

・義務教育9年間を見通し、子どもの進路を保障していく教職員 ・子どもの良さを引き出す教職員

3 前年度重点目標と達成状況

前年度重点目標	達成状況
1 基礎・基本の学力の定着をさせる。	算数科の全国標準診断的学力検査で、全国平均以上達成の学級は56.2%だった。未達成の学級全て全国平均にあと一步に近づいたが、目標を達成させたい。
2 子どもの自己肯定感を高める。	子どもの良い所を認めほめて伸ばし、自信を持たせる取組として「スマイル名人」を認定(72%)した。「自分のよさが周りから認められている」児童は73%だった。

4 本年度重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
1 基礎基本の学力の定着をさせる。	基礎基本の学力の定着に課題があり、生徒指導の3機能をいかした授業づくり、家庭学習や補充学習の充実、学習規律の徹底に取り組んでいく。
2 子どもの自己肯定感を高める。	児童に自己肯定感を持たすため、あいさつとともに、子どもの良い所を認めほめて伸ばし、自信を持たせていく。

5 前年度の学校関係者評価結果を踏まえた改善点

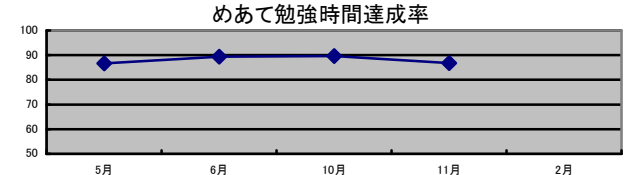
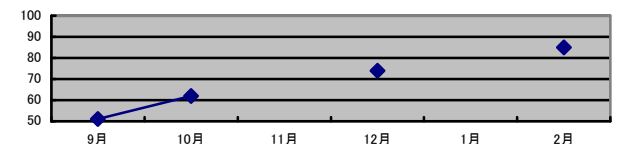
本校の実態に即した評価項目・指標を設定する。

※ 評価基準

評価・指標評価	基準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

IV 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	(最終) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み に着目)	() 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標の達成状況 ◎ 改善方策
確かな学力	3	基礎学力の定着を図る教育活動の推進	★	継続	基礎・基本の学力の定着を図る。		△算数の全国標準診断的学力検査(CRT)で、全国平均以上のクラスを100%にする。		□CRTは1月に実施予定 ◎昨年度結果分析を行い、課題問題に対しての手立てと確認テストを3回実施する。
							▽家庭学習やりきり週間を年間5回実施し、家庭学習をやりきる児童を95%以上にする。 (低学年30分以上、中学年45分以上、高学年60分以上)		□家庭学習やりきり週間 計画通り実施(4回) 家庭学習時間 5月86.6% 6月89.4% 10月89.6% 11月86.8% ○目標値には達成していないが、自主勉強の定着が図られてきており、課題を見つけて学習に取り組めるようになってきた。  ◎学習のふりかえりをしながら自己課題を設定することや、知識を広め探求する姿勢を育むために調べ学習を視野に入れた家庭学習指導を進める。
豊かな心	1	積極的な生徒指導の推進	★	見直し	規範意識を身につけさせるとともに、自己肯定感を高める。	B	△「友達の良い所を見つけられる」児童(ほめ達人)を90%以上にする。		□ほめ達人 9月51% 10月62% 11月 12月 1月 ○毎日帰りの会等で友達のよい所を見つけ合い、カードに記録しクラスに掲示し、朝会でも認定証を渡すことで児童に意識化することができてきた。友達のよい所を見つけ合うことによって生徒指導の三機能を生かせる学級集団が育まれてきている。  ◎友達のよい所を見つけ、仲良く安心して過ごせる集団になることを味あわせながら、実践力を伴う行動化を促していく。

					<p>△「自分から進んであいさつができる」児童を90%以上にする。</p>	<p>b</p> <p>□「自分から進んであいさつ」 6月79.1% 10月88.4% ○進んであいさつをする児童が少しずつ増えており、「自分からする」意識は育ちつつあるが、声が小さい児童が多く活発にできるまでに至っていない。</p> <p style="text-align: center;">あいさつ</p> <p>◎ほめ達人の取組と合わせて効果的に展開できるようにする。 小中合同あいさつ運動と児童会あいさつ運動の連携を発展させ、中学生を手本として児童に意識付ける。</p>		
					<p>△チャイム着席ができる児童を90%以上にする。</p>	<p>a</p> <p>□チャイム着席 6月70.3% 9月86.4% 1月95% ○大休憩後の3校時と5校時始めを重点にして取り組み、児童は着席し授業準備がまほできるようになってきている。</p> <p style="text-align: center;">チャイム席</p> <p>◎授業者が授業開始・終了時刻を確実に守ることで意識化を図っていく。</p>		
力量ある教職員	3	中学校区と連携をし、教育の専門性の向上	継続	<p>済美中学校区との連携を図り、生徒指導の三機能（「自己決定」「自己存在感」「共感的人間関係」）を重点化して取り組む。</p>	A	<p>▽「ペア学習」を重点化して校内授業研修を行い、算数では毎時間「ペア学習」を必ず取り入れる。</p>	a	<p>□校内授業研究の指導案にペア学習を必ず取り入れている。 ○研究授業指導案・展開の中へ組み込むことで、指導者に取り入れる意識が定着してきた。他教科でもペア学習を取り入れられるようになってきており、児童も学習スタイルに慣れてきている。 ◎生徒指導の三機能を授業の中で生かすための具体的手立てを、小中学校指導システムを明確化しながら研究を進めていく。</p>
市民から信頼される学校	1	開かれた学校づくりの推進	見直し	<p>保護者や地域とのつながりを深め、信頼される学校をつくる。</p>	A	<p>△小中一貫教育の取組や子どもの良さ・頑張り等を取り入れた「学校だより」を月2回以上発行し、保護者・地域に伝えていく。</p>	a	<p>□学校だより 月2回発行（現在21号） ○「ほっとコーナー」を設け、児童の頑張りや前向きな姿や頑張りを紹介している。地域にも回覧し、学校の取組を広く伝えられるようにしている。 ◎中学校の取組や中学生の活躍を紹介することで、9年間を見通した小中一貫教育の意義を保護者・地域に啓発していく。</p>

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

					<p>▽家庭で作れる「料理レシピ」を、地域や保護者に月に1回以上配布し、家庭の食文化の向上を図る。</p>	a	<p>□「料理レシピ」 月1回発行(現在9号) ○地域のスーパーやふれあい市へもレシピを置かせてもらい、普及に努めた。 ◎郷土料理を知らない若い世代の保護者に地元野菜を使ったレシピを紹介しながら、福山の魅力や伝統を伝える家庭意識を育てていきたい。</p>
--	--	--	--	--	---	---	---